



- 令和4年度 秋田県生涯学習・社会教育研究大会
- 令和4年度 秋田県自作視聴覚教材コンクール
- 生涯学習の窓

秋田県生涯学習センター（編集：社会教育アドバイザー）

生涯学習

社会教育

家庭教育

令和4年度 秋田県生涯学習・社会教育研究大会を開催！

令和4年11月11日（金）に、人づくり・つながりづくり・地域づくりを推進する生涯学習・社会教育の充実のため、社会的課題への対応や関係者に求められる役割・資質について研究協議を行い、協働体制の実質化とそのつながりを担う人材の育成を図ることを目的に、令和4年度秋田県生涯学習・社会教育研究大会が開催されました。「持続可能な地域づくりに向けて ～ゆるやかなネットワークによる社会教育の充実～」を大会テーマに、秋田県生涯学習センターに来所もしくは視聴可能な場所でのライブ配信（Zoom）という形で行われ、137名（うち来所者65名、配信視聴者72名）の生涯学習・社会教育主管課職員、公民館・市民センター等の社会教育関係施設職員、社会教育委員、公民館運営審議会委員、生涯学習奨励員、家庭教育支援関係者、学校教育関係者、社会教育士、社会教育主事有資格者等が参加しました。

文教大学 人間科学部 教授 金藤 ふゆ子 氏 基調講演



はじめに、金藤 ふゆ子 氏から「社会教育関係者には、今何が期待されているのか ～持続可能な地域づくりに向けて～」という演題で基調講演をいただきました。

金藤氏は冒頭で、「学びを通じた地域づくり・ひとづくり・つながりづくり」は多くの省庁が取り組む政策であると述べられました。特に、「学びを通じた」がキーとなること、人口減少時代には社会教育が基盤となって、人づくり・つながりづくり・地域づくりに取り組み、学びと活動の好循環を生み出していくことが重要であること、社会教育は今、個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割をもっていると考えられることなどを話されました。

さらに、社会の各分野で社会教育主事有資格者が活躍することが、社会全体の学習の充実と質の向上に繋がると加えました。そこで、地域がいかに多様な組織・団体で構成されているかが分かる活動概念図を示しながら、人を育むことなどの概念が現実化していけば、人づくり・つながりづくり・地域づくりが実現に向かうことを説明されました。また、地域と学校をつなぐ関係者は、助けを求めたり受け入れたりする力（求援力と受援力）が大切であること、動ける人にならないと組織が動かなくなることを、先生のご経験や東京都の中間支援組織を例に紹介されました。

結びには、本県オーダーメイド型社会教育主事派遣事業や各県の社会教育委員の活動を取り上げ、地域の学びを通じた多様な主体との連携・協働、学び合い・支え合いは、必ず地域全体を活性化するとまとめられました。この基調講演により、社会教育関係者の方向性が揃い、今後の業務や活動における指針や推進力を得ることができました。

素晴らしい実践が紹介されました！

午後からは2つの実践紹介が行われました。

1つめは、鹿角市教育委員会生涯学習課 主査 赤坂 勲 氏が、「熟議で深まる地域のきずな」と題して、課題の現状を確認するとともにオーダーメイド型社会教育主事派遣事業を活用した経緯が語られ、事業がどのように作用したのか、熟議の必要性和効果、熟議に必須のファシリテーターの育成の実践について、料理になぞらえながら発表されました。

2つめは、仙北市教育委員会中央公民館 社会教育専門官 佐々木幸美 氏が「共生社会実現に向けた公民館の取組」と題して、大曲支援学校「せんぼく校」や指定障がい福祉サービス事業所「愛仙」、



県生涯学習センターとの取組等を取り上げて、各所と連携・協働しながら地域ネットワークを構成していく実際や共生社会のために私たちができることについて発表されました。

また、参加者同士で話し合うガヤガヤタイムでは、実践紹介についての感想やそれぞれの地域状況を活発に出し合いながら情報交換していました。

そして、質問タイムの後、金藤氏から講評をいただき終了しました。

大変有意義で充実した研究大会となりました。



生涯学習

社会教育

令和4年度
(第72回)

秋田県自作視聴覚教材コンクール

実施&審査結果

本コンクールは、学習者の実態に応じた教材や地域に根ざした学習のための教材など、学び

の多様化に対応した視聴覚教材の自作と活用を推進し、視聴覚教育の充実を図ることを目的に、毎年開催されています。今回は、4部門9作品(小学校1、中学校4、高校1、社会教育3)のエントリーがありました。

学校の授業場面における活用や郷土、地域の伝統文化の継承等に関わる内容で、ねらいの明確な作品が多数見られました。昨年度、1人1端末としてタブレットP Cが児童・生徒に配付され、なお一層視聴覚教材の効果的な活用が求められています。学習者にとって、いかに分かりやすく工夫されているかが求められたコンクールとなりました。映像の質も高く、素晴らしい作品ばかりでした。

審査中→



最優秀賞

中学校部門

「蒸留の実験を安全に正しく行う実験方法」

秋田大学 杉森 夢叶 さん

＜講評＞温度変化を可視化するために計器類を効果的に用いています。逆流によるフラスコの破裂や破損が起きる様子の再現だけではなく、事故を防ぐための操作上の留意点や実験装置の組み立てについても具体的に提示できています。／「成功例」に対する「失敗例」の提示があり、「失敗は成功の元」としての学びが見られます。／授業したときの体験がしっかりと反映されていてよいと思いました。



蒸留の実験を安全に正しく行う実験方法

杉森さんの作品は、全国自作視聴覚コンクールに推薦されます。

優秀賞受賞は、次のとおりです。

・社会教育部門 「ゆざわジオサイト案内所6 皆瀬／稲川／駒形」

メディアバンクみるわーく 畠山 仁 さん

・中学校部門 「プラスチック比較」

秋田大学 近藤 ひより さん

生涯学習

本欄では、生涯学習の推進をはかるため、生涯学習活動に取り組み輝く方をインタビュー形式で紹介しします。



「NPO秋田千秋はすの会」

代表

鈴木 美保子 さん



①会の立ち上げや活動を始めたきっかけについて教えてください。
染色作家として町田市に訪れた際、障害のある方々の生涯学習で、蓮利用の作品作りを知りました。その後、千秋公園の蓮の利用法について当時の生涯学習課長さんに調べて頂いたところ、特にないとのことでした。同時に、これを生かす団体の発足を勧められ、一念発起して仲間の5人で同会を立ち上げました。

②会での活動について、どのような意義や魅力を感じていますか？
勉強会を開き、蓮の魅力をさらに追求できることが楽しいです。また、様々な方々との連携やイベントの準備・実施を通して、人とのつながりが広がることに意義を感じます。この活動が、寂しさを感じていた周辺地域の活性化につながることを願っています。

③同会における今後の目標や展望について、教えてください。

毎年開催の「ハスフェスタ」では、発芽体験・手織り制作・象鼻杯体験等を実施していますが、年毎に新たな企画もしていきたいです。今後は、園内の蓮の種類を増やしたいし、古代蓮も残したい。講習会を開いて、蓮について知ってもらい、広めたいと考えています。

④草木染工房の主宰やボランティアコーディネーターとしても活躍されていますが、生涯学習の意義についてどうお考えですか？

年齢関係なくで、いろいろな人と知り合えて、喜びを得られるものだと考えます。私自身、活動を通してこのことを実感し、だからこそ続けられていると思っています。秋田の自然を生かしつつ、学ぶ楽しさを子どもをはじめ多くの方々に伝えられたら幸いです。